

江戸遺跡研究会第84回例会は、2002年3月20日（水）18:30より江戸東京博物館学習室にて行われ、大平茂男氏より「民家調査の現状」の報告をいただきました

民家調査の現状

大平 茂男

（伝統技法研究会）

1. 民家研究の概要

民家という言葉は『広辞苑』で引くと、「住民の住む家。庶民の住宅。人家。民屋。」となっている。一般には庶民の住まいと説明されることが多く、農家、魚家、町家等を総称しており、建物は住まいと生業の空間がいっしょになっていることが多い。

さて、これらの民家を対象とした研究がどのように進んできたのか、概要をまとめると次のようになる。まず最初の時期は任意の民家についての記録採集で、間取り、構造、意匠等を図面や写真で記録し、戦前の主流であった。次に戦後10年くらいの時期の民家研究の主流となったもので、地域的・集团的に多くの民家を対象とした研究で、多くの民家の中から、その地域を代表する様式をみつけようとしたものである。

そして現在の代表的な流れである、民家の復元と編年を基本とする研究となる。これは、創建当初の間取りや構造を、部材に残された痕跡を頼りに復元してとらえるという考え方で、調査方法の発達と復元操作が建築史一般の基本的研究方法として認知されたことによる。また、最近では構造の特色やその発展過程の解明が、重要な課題の一つになっている。

2. どのような民家を調査するのか

民家を保存するおおきな目的の一つは、庶民生活の歴史を知るためである。したがって、存在が少なく取壊しの危機も近いことが考えられる、できるだけ古い民家を調査して保存することになる。民家の造りは、地域や身分等による違いがみられるが、以下に示す特徴はこれらをこえた古い民家の持つ共通の特徴である。

手斧仕上の柱がある。

屋根材料が草葺き、板葺き、本瓦葺きのいずれかである。

軒の高さが低い。

柱が1間ごとに立つ。

土間に柱が立つ。

角が丸い柱や曲った柱、断面が長方形の柱がある。

土台のない構造。

小屋束の貫が梁行と桁行で離れている。

開口部が閉鎖的である。

暗く閉ざされた内部。

3. 民家を指定文化財として保存するために必要な調査事項

(1)家の歴史と住宅の沿革

- a. 集落の歴史
- b. 家の歴史
- c. 住宅の沿革

(2)敷地の状況

- a. 集落内の位置
- b. 敷地・耕地の略図
- c. 敷地内の建物の配置
- d. 井戸・祠・墓等
- e. 屋敷林・屋敷畑等
- f. 写真

(3)住宅の現状

- a. 平面図
- b. 断面図
- c. 写真
- d. 立面図・詳細図・屋根伏図

(4)復元的調査

- a. 痕跡図
- b. 復元平面図

(5)建設年代の判定および建設以後の主要な改造過程

- a. 年代判定のための主要指標の調査
- b. 近隣の地域の民家との比較
- c. 建設年代の推定
- d. 主要な改造過程の説明

(6)住まい方（居住習俗）の調査

- a. 建物・部屋・主要設備の古い名称
- b. それらの以前の使い方
- c. 主要な行事の場合の使い方
- d. その他

(7)文化財としての評価

上記の項目を総合して評価する。

(8)今後の活用方法についての提案

- a. 敷地をどのように活用するか
- b. 各建物をどのように活用するか
- c. 主屋内部の具体的な活用方法
- d. 関連施設（博物館・公園等）との関係

(9)保存工事について

- a. 破損状況
- b. 保存工事の内容
- c. 防災・管理のための工事の概要

4. 旧高橋家住宅の概要

朝霞市は、1998（平成10）年度に緑地公園等用地として根岸台2丁目の土地約1万㎡を購入した。この土地は、根岸台の台地から黒目川沿いの低地に向けての崖線上に位置しており、その緩やかな崖地の上に旧高橋家住宅が残されていた。

旧高橋家住宅は、正面を南に向けた主屋を中心に、納屋、倉、井戸等がある屋敷地をはじめとして、南側の畑から北側の傾斜地の屋敷林にいたるまで農家の景観を良く保っており、朝霞市の「原風景」とも呼べるものであった。

主屋は増築部分を除き、桁行約7間半、梁間約4間である。屋根は茅葺き寄棟造りで、現在は茅の上に波形鉄板を被している。南側には土庇が付き、西面の一部は下屋として便所が廊下より突き出し、北面は奥行き1間の下屋が増築されている。平面は右側がドマとなっていて、左側の床上部分は南に2室、北に2室及びドマに開放されたイタノマからなっている。

基礎部分は、外廻りの多くの部分に後補の土台と地覆が廻っていたが、他は土台のない石端建てである。柱は、丸みの残る野太付きの柱が数多く見られ、柱の間隔は土間部分で半間ごとに、各部屋境では原則1間である。土間境に立つ大黒柱は、断面が長方形で手斧の痕跡が見られる。手斧の痕跡はこの他にオクノヘヤの一部の柱やイタノマの差物にも見られる。小屋組は、梁間4間の小屋梁の上でサスを組み棟木等を載せている。サスは、元口を上にして長ほぞ差しで、女木と男木を交互に配っていた。

5. 旧高橋家住宅の調査結果

調査からは、建物の創建年代を示す資料は発見できなかったが、痕跡などに基づいて、創建時の間取りを復元してみると、江戸時代中期以降の民家にはみられない、古い時代の特徴があることがわかった。

具体的には、床上部分の南側の一部が壁であることと、一般的に、柱間には引違いの建具がつくが、ここでは半分が袖壁になっていることなど、閉鎖的な造りになっていたことが上げられる。次に、土間に面している2室は、当初は1部屋の広い板の間であり、その一部には床の間の前身に当たる押板が設けられていたことである。さらに、構造的なこととして、南側の部屋境など、2間半の中央に柱が立っていたことなどが上げられる。これらの特徴は、時代が下がるにしたがい、改変されてなくなってくる。中でも、日常生活では、南側はできるだけ広い開口が望まれる場所であり、ここが閉鎖的な造りであることは、創建年代を推定する大きな手掛かりになった。

旧高橋家住宅の創建年代について、これらの特徴と、近隣の創建年代のわかっている民家と比較して得た結論は、1680年代以前にまで遡るというものであった。これは

埼玉県内においても、最も古い時代に属する民家である。

また、復元された創建時の間取りは、3室広間型と呼ばれるものでこの間取りと現状を比べてみると、後年の改造の多くは北側への増築であり、当初の建物の基本的な構造には、大きく手が加えられていない。したがって、柱も数本を除いてほとんどが残存しており、当初の建物を容易に復元できる状態であることもわかった。

調査は1998年度におこなわれたが、朝霞市はその調査結果を受けて直ちに文化財として指定した。そして2001年には国の重要文化財に指定された。今後は主屋だけではなく付属屋、屋敷林、畑などを含めた農家の構成を保存する方向で具体的方策が検討されることになっている。

なお、建設年代を推定するについて比較した民家は、形式と技術の発展も似ている、関東地方南部の古い農家で次の通りである。

- | | | |
|-----------|----------------|--------------|
| a. 旧大沢家住宅 | (千葉県習志野市、県指定) | 寛文4年(1664年) |
| b. 椎名家住宅 | (茨城県出島村、国指定) | 延宝2年(1674年) |
| c. 旧北村家住宅 | (川崎市日本民家園、国指定) | 貞亨4年(1687年) |
| d. 中崎家住宅 | (茨城県内原町、国指定) | 元禄元年(1688年) |
| e. 石井家住宅 | (神奈川県藤野町、国指定) | 宝永4年(1707年) |
| f. 旧尾形家住宅 | (千葉県丸山町、国指定) | 宝永6年(1709年) |
| g. 吉田家住宅 | (埼玉県小川町、国指定) | 享保6年(1721年) |
| h. 鴉田家住宅 | (千葉県習志野市、市指定) | 享保12年(1727年) |

新発見遺跡速報展 『2002 新宿の遺跡』

会場：新宿歴史博物館（東京都新宿区三栄町22）

展示期間：平成14年4月27日（土）～5月26日（日）

休館日：4月30日・5月7・13・20日

展示内容：近世墓の発掘成果を中心に、平成13年度に発掘調査が行われた新宿区内の遺跡をとりあげ、主要遺物を展示・紹介します。

入場料：無料

問合せ先：新宿歴史博物館 埋蔵文化財課 03-3359-2132

新宿区遺跡調査研究発表会

会場：新宿歴史博物館講堂（東京都新宿区三栄町22）

日時：平成14年5月12日（日）13:00-16:10

定員：100名（先着順）

入場料：無料（但し資料代として300円）

内容：

(1)主要遺跡調査概要の発表

荻野早苗「市谷甲良町遺跡」

牧野麻子（株式会社大成エンジニアリング）「信濃町南遺跡」

小林 裕（東京都埋蔵文化財センター）「柏木淀橋町遺跡」

(2)調査研究成果の発表

相澤陽子「弥生土器の文様と地域差」

栩木 真「新宿の近世墓」

問合せ先：新宿歴史博物館 埋蔵文化財課 03-3359-2132

第4回四国城下町研究会「四国・淡路の陶磁器 - 理兵衛焼と京焼 - 」

期日：平成14年7月20日（土）21日（日）

場所：宇多津町保険センター 2F

〒769-0292 香川県綾歌郡宇多津町1881

内容：

- ・香川県の近世窯である理兵衛焼について、高松城出土遺物の抽出・分類を行い、江戸高松藩上屋敷(飯田町遺跡)の様相との比較を行う。併せて京・信楽系陶器との差異を検証し、理兵衛焼の京焼の中での位置づけを検討する。
- ・理兵衛焼について文献史料・伝世資料と考古資料とを比較検討する。
- ・10代理兵衛が香川県監獄署内で指導されたとされる出土資料から、近代窯業生産について生産技術や操業形態等を通して近代化を検討する。

7月20日(土)

13:00 開会

- ・松本和彦 (香川県埋蔵文化財調査センター)
「高松城出土の京・信楽系陶器の様相と理兵衛焼」
- ・陶山仁美 (香川県埋蔵文化財調査センター)
「高松城跡(西の丸町)出土の京・信楽系陶器」
- ・厚 秀雄 (千代田区立四番町歴史民俗資料館)
「江戸高松藩邸出土の理兵衛焼」
- ・長佐古真也(東京都埋蔵文化財センター)
「出土資料からみた京焼碗類の変遷と生産窯」
- ・藤本史子 (大手前大学)
「理兵衛焼と富田焼の関係」

7月21日(日)

9:15 受付

- ・森下友子 (香川県埋蔵文化財調査センター)
「紀太家由緒書きと理兵衛焼」
- ・岡 佳子 (大手前大学)
「理兵衛と京焼」
- ・佐藤竜馬 (香川県教育委員会)
「香川県監獄署における窯業生産」
- ・仲野泰裕 (愛知県陶磁資料館)
「御用窯再考・廃藩と御用焼物師」
- ・遺物と窯道具の検討
- ・討論

資 料 代：予価3,000程度

申し込み：7月5日(金)までに下記宛にFAXあるいは郵送にて

〒779-0108 徳島県板野郡松茂町笹木野字八上57-1 A - 206

日下正剛 FAX088-699-6396

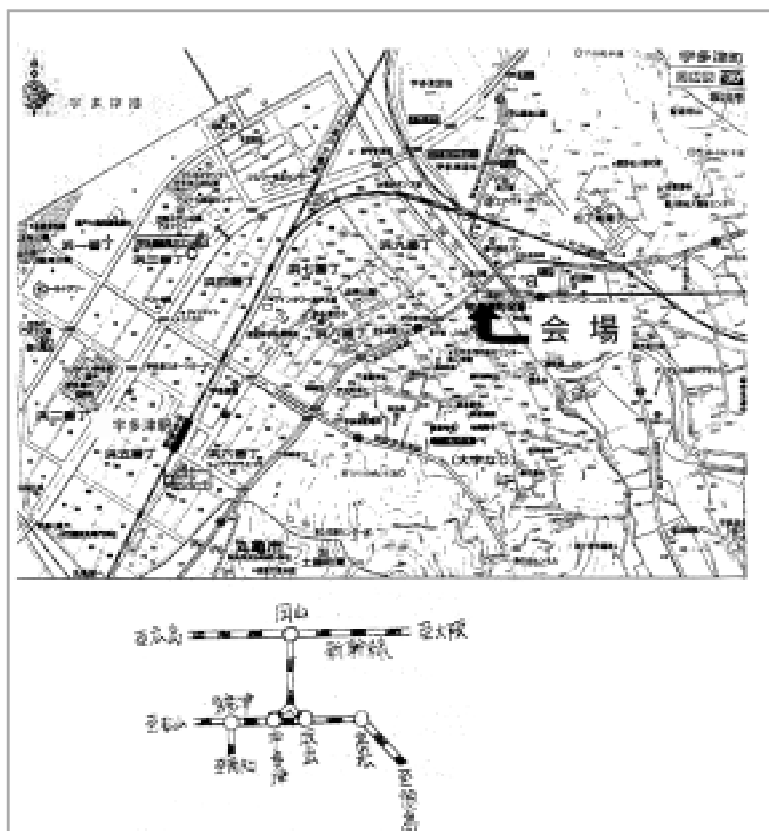
問い合わせ：日下正剛(夜間17:00～8:00)

TEL 070-5187-4636

松本和彦(香川県埋蔵文化財調査センター) TEL 0877-48-2191

交通アクセス

- ・ JR予讃本線
宇多津駅下車
徒歩20分
- ・ 高松空港
連絡バス 40分
- ・ 車 岡山方面から
坂出北IC
高松方面から
坂出IC



特別展「こだわりの湯のみ茶碗」

会 期：平成14年 4月27日(土)～ 6月2日(日)

会 場：入間市博物館 西武池袋線入間駅から西武バス入間市博物館行き終点
同 箱根ヶ崎行きまたは二本木地藏行き二本木停留所

展示内容：縄文土器から江戸時代に至る飲用器の様々

江戸時代の湯のみ茶碗

湯のみ茶碗の登場する浮世絵

各界著名人ゆかりの湯のみ茶碗 他

関連イベント：湯のみ茶碗の絵付けにチャレンジ！

5月5日、6日

だれも持っていない湯のみ茶碗をつくろう！

5月3日、4日

笑いのなかの湯のみ茶碗 アリット落語会

5月26日

いずれも要申し込み

問合わせ：入間市博物館 工藤 宏、梅津あづさ

〒358-0015 埼玉県入間市二本木100

tel. 042-934-7711 fax.042-934-7716

赤 膚 焼 研 究 会

趣意と目的

赤膚焼は小堀遠州（1579～1674）創始といわれる遠州七窯のひとつとされ、素朴な意匠と生地の独特の温もりで、全国に知られる大和の雅陶である。しかし、その歴史についてはまだ不明の点も多く、江戸時代の陶芸史や大和の窯業史の中での位置付けも明確とはいえない。たとえば、その初現、製品や製作技法の変遷、さらに製品の流通形態など、今後の検討を要する部分はきわめて多い。

本研究会は、上述の問題点を美術史・考古学・赤膚焼窯元らが共有し、それぞれの立場から研究報告や質議を行うことにより、研究の進展や共通認識を得ることを一義的な目的としている。また、副次的な目的として、焼物や郷土史に関心を持つ市民が本研究会に参加することにより、より一層それらに対する理解を深めてもらうことを掲げている。

活動状況

本研究会は美術史家・考古学研究者・赤膚焼窯元らを発起人として2001年11月17日に発足し、現在（2002年4月）までに3回の研究集会を開催した（毎回の参加者は40名程度）。開催日・内容等は以下の通りである。

第1回例会 2001年11月17日「赤膚焼の流れ - 発生から幕末まで - 」

発表者：村上泰昭氏（美術史研究家）

第2回例会 2002年1月26日「西ノ京の土器作りと出土した赤膚焼について」

発表者：山川均氏（大和郡山市教育委員会・考古学）

第3回例会 2002年4月13日「奥田木白 - 人と作品 - 」

発表者：村上泰昭氏（美術史研究家）

こうした研究集会は年に4回程度開催する予定である。このほか、研究集会とは別にニュースレター『赤膚焼通信』1・2号を発行した。例会での研究発表内容や赤膚焼の名品紹介コーナーなどを掲載しており、好評である。ちなみに次回（第4回例会）は、2002年7月13日、「木白の彩色技法」をテーマに山内章氏（元興寺文化財研究所）が発表の予定（於：大和郡山市三の丸会館）。

今後の展望など

以上のように、本会では過去3回の研究集会を経験したものの、現時点では従来の研究の到達点を確認したに止まり、当初の目的であった「研究の深化」はほとんど認められない。反面、会を重ねる毎に一般ファンの参加が目立つようになっており、副

次的な目的、すなわち啓蒙普及に関しては予想以上の成果を上げている。またこのほか、成果の一部として、一般市民が所蔵する赤膚焼の「自己申告」が増えたことが挙げられる。その中には過去に例を見なかったような名品も含まれていることから、当会では伝世品を中心とした赤膚焼データベースの作成も開始している。今後も地道に活動を続け、赤膚焼に関する調査研究の推進を図るとともに、市民への普及啓蒙にも力を入れていきたい。

全国で同様の研究会を主催されている方、もしくは参加されている方はぜひ下記まで情報をお寄せください。また、当会に関する質問、もしくは赤膚焼に関する質問も下記までお願いします。

連絡先（代表）小川一雅

〒639-1013 大和郡山市朝日町4-18

TEL. 0743-52-3274

E-mail akahada-niraku@nifty.com

第85回例会のご案内

日時：2002年5月15日（水）18:30～

発表：小池 聡 氏

「港区上行寺跡・同門前町屋跡遺跡の調査」

会場：江戸東京博物館 学習室

交通：JR総武線両国駅西口改札

徒歩3分

問合せ：江戸東京博物館

03-3626-9916(小林)

東京大学埋蔵文化財調査室

03-5452-5103(寺島・堀内・成瀬)

江戸遺跡研究会公式サイト

<http://www.ao.jpn.org/edo/>



【編集後記】前号の入間市博物館特別展「こだわりの湯のみ茶碗」ご案内の交通アクセスが間違っていました。本号をご参照ください。すみませんでした。